

教育

保健師になるために必要な「疫学」と「保健統計（情報処理を含む）」の領域を担当しています。EBN（Evidence-Based Nursing：科学的根拠に基づく看護）の実践に必要な、疫学や統計学の理論と方法、および実践のためのコンピュータ操作を通じて、科学的な考え方や知識を学生に身につけてもらうよう教育に取り組んでいます。

【担当科目】

健康情報学：人口や病気の発生状況を知る統計の方法を学びます。
また、病気の原因や予防法を調べる方法を身につけます。



生物統計学：データを集計したり、データの背後にある要因を探ります。
ちょっと難しい数学を利用しますが、分析はコンピュータを利用します。



健康情報：「コンピュータを使って何が出来るか」を重視しています。

処理演習：インターネットから適切な情報を集めて分析し、他者にうまく伝える能力を養います。

応用情報処理学（選択科目）：さらに高度な統計学の方法を学びます。

実務情報処理学（選択科目）：様々な場面を想定して、情報処理の技能を活用します。

看護大学で統計の授業？ —なぜ統計を学ぶのか—

患者さんのお世話をするために、体と心のこと、病気のこと、薬のことなどたくさん勉強することがあるのに、統計学でややこしい数学の話も勉強して、どんな役に立つの？勉強しなければいけないの？

フローレンス・ナイチンゲール（Florence Nightingale）は看護学の歴史において偉大な人物であることはご存じですね。実は、ナイチンゲールはすばらしい統計学者でもありました。彼女は英国王立統計協会の会員でもあり、当時の有名な統計学者と密接な交流を持っていました。

彼女の偉大さは、社会や国を動かし、看護への関心を高め、よりよい看護ができるように改革を押し進めたというところにあります。実態を示す資料、改善の効果を明らかにする資料として、グラフや統計で詳細に分かりやすくデータを提示し、周囲を説得して看護の改善を推し進めていったのです。人や社会を動かすためには熱意も大事ですが、科学的で客観的な根拠が必要なのです。

今日の看護において、EBN（Evidence-Based Nursing：科学的根拠に基づく看護）と呼ばれる考え方が重要になっています。科学的な根拠を理解し、それを正しく患者さんや周りに伝えるためにも、統計学を理解することが必要になります。

“数字”に誤魔化されない・だまされないためにも、正しく“数字”を読みとる能力の一環としての統計学を学んでください。

研究

【研究室の研究テーマと卒業研究】

- 朝食は大切
—性別・年齢階級別にみた欠食の要因と対策—（2007）
- 若年女性の喫煙率の経年変化と背景に関する研究（2006）
- 喫煙高齢者の健診結果の特徴（2004）
- 健康・食生活に関する自己評価と基本健康診査との関連（2002）

- 学習しやすいホームページの検討
—食育に関するサイトから—（2007）
- 自治体Webサイトにおける
子ども向け健康情報の提供に関する調査（2005）
- 看護学生を対象とした
食生活の自己管理能力向上のためのWebサイト作成（2005）

研究室の研究テーマ

◆生活習慣の評価と改善

◆情報システムを用いた健康教育技法

◆医学、看護学分野における統計手法の応用

◆医療、福祉分野における情報システムの研究・開発

- 大分県における男児出生性比の経年変化（2007）
- 大分県の人工妊娠中絶実施率はなぜ高いのか（2006）
- 高齢者における肥満指標の経年変化と健診結果との関連（2004）
- 高齢者におけるウエスト・身長比の判定基準と疾患との関連（2003）
- 地域保健活動と老人医療費の関係についての検討
—大分県内58市町村別の資料に基づく分析—（2002）
- 大分県における糖尿病有病者数、耐糖能異常者数の推計（2001）

- 医療機関がWeb上で発信する情報
—患者・国民が知りたい情報は提供されているのか—（2007）
- 看護記録の電子化に用いる入力ツールの有用性の検討
—キーボード、携帯電話式入力、音声入力などの比較—（2003）
- インターネット上の医療情報の提供に関する調査研究
—患者・家族による情報収集を想定して—（2001）

本研究室は、教育や研究以外にもこんなことをしています。

大学内のコンピュータ機器，ネットワークの保守管理

【本学の情報環境】

学生が使用できるコンピュータは、学部定員340人に対して、学内に約100台用意されており、「情報処理教室」や「メディアセンター」などといったコンピュータ環境の整備された教室で、朝8時～夜10時まで自由に利用できます。また、ネットワークを利用して、学生は各自のデータやファイルをサーバ（ネットワーク上のコンピュータ）内に保存することができます。もちろん、すべてのコンピュータが高速な回線でインターネットにつながっています。

【本学の情報環境の特徴】

- ・卒業後も有効なメールアドレスの発行
- ・学内発信のメールを携帯メールへ転送
- ・休講情報や就職情報などをメールにより配信
- ・レポート提出や教材配布にネットワークを利用

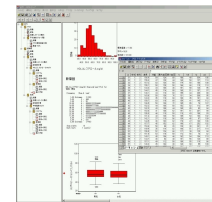
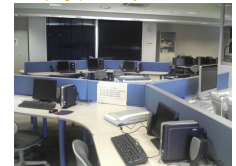
【利用できる主なソフトウェア】

- ・Microsoft Office (Word, Excel, PowerPoint)
- ・ホームページ作成ソフト
- ・画像処理ソフト
- ・統計ソフト (SPSS)

情報処理教室



メディアセンター



統計ソフトウェアSPSSでのデータ分析の例

看護とコンピュータ

今日の病院をみると、受付、診察室、検査室、レントゲン室、病棟、会計などあらゆる場所にコンピュータが設置されています。診療録や看護記録はコンピュータに入力され電子的に管理されており、また検査や処方などの依頼は診察室のコンピュータを使って各部署に瞬時に伝わるようになっています。さらにコンピュータは、測定・観察された医学や看護に関するデータの整理や分析、研究成果の発表の場にも活用されています。

いまやコンピュータは、よりよい医療・看護を提供するために欠くことができない重要な「道具」となっています。

本研究室では、コンピュータを使って、「信頼できる情報を探し出す」、「データを適切に分析する」、「情報を誰もが理解できる形に加工し、患者さんや住民の皆様々に正しく伝える」ことができる能力を身につけてもらうための教育をしたり、大学内の環境整備を行っています。

看護職，医療施設を対象とした講習，研究指導（研究法，統計，情報処理など）

【実績】

- ・臼杵市医師会立 コスモス病院（研究指導）
- ・大分県立病院（研究指導）
- ・大分市医師会立 アルメイダ病院（研究指導）
- ・国立病院機構 西別府病院（研究指導）
- ・別府医療センター附属 大分中央看護学校（講師）
- ・大分県 看護教員養成講習会（講師）

主として、各施設の看護職者が行っている研究の統計分析に関する指導を行ったり、パソコンや統計分析の講習会を行ったりしている。



看護職員の養成に携わる者に、必要な知識・技術・態度を修得させ、看護教育の内容の充実ならびに質の向上を図ることを目的とする講習会の科目「情報科学」を担当。

看護師に必要な情報活用能力を身につけるための科目「情報科学演習」を担当。

